



今や世界史上に重大なる問題として提供せられたる滿洲國承認問題は、茲に日滿相互の調印によつて其の一段落を見たるは吾人の大いに祝賀する所なり。

然し乍ら、之れは形式的一段落にして、要は今後の實質的握手の調印がなければならぬ。所謂、滿洲國三千萬民衆の誠心と帝國八千萬同胞の誠意との結合なくしては、永久不變の日滿親善と、帝國國防の保全と、眞の帝國殖民政策の成果とを期することは出來難たし、即ち砂上に樓閣を築くの愚と云ふべし。

日滿兩國の握手は、畢竟するに、東洋平和の維持を翹望せるものにして、而もその實現は進んで支那四億民との融和協調に據らざるべからず。斯くしてこそ日支滿三國相提携して始めて、極東平和の維持増進に、その絶對的基礎を興ふることを得べし。

要するに、今や、滿洲國承認を祝賀すると共に、赤裸々なる支那人の性格を檢討把握し、而も、彼に對しては、我が大和民族精神の眞實相を知らしめ、以て兩者の精神的融合を計るを急務とす。

(2)

此意味に於て、本聯盟は會員を日本工業俱樂部に召集し、多年彼地の凡ての階級の人々の間に出入せられ、支那人心の奥底を研究し、加之最近の滿蒙支那の各地を視察歸朝せる本聯盟委員後藤朝太郎教授を聘し、「支那人の性格に就て」の研究會を開催せり。

本書は其の席に於ける教授の腹臑なき意見の一端を江湖諸彦の閲讀に供せんとして發行せるものなり。

全國大學教授聯盟

文責者 常務委員 小 松 雄 道

目 次

一、國家思想の別天地	一
二、支那人心理の裏面	七
三、滿洲問題の機微	一四
四、全國大學教授聯盟會報	三三

滿洲國の民心を認めよ

一 國家思想の別天地

只今、松波先生から御鄭重なる御紹介に預りました。私は、年來支那、滿洲、其の他南洋、臺灣と云ふ支那民族の擴つて居る所は、その中に、獨立國があらうと、華僑があらうと、さう言ふことには拘泥しないで、私の趣味の赴くが儘に漁つてゐる。誰れ人から頼まれたといふ譯でもなく、所謂行脚氣分の意味で視察旅行をなし續けて來たに過ぎないのであります。随つて其處には難かしい目的などなく、誰れにどういふ報告をしなければならぬと言ふことも決してありませぬ。唯自分の都合と身體の許す範圍内に於て個人で出掛けて行く。家族を連れて行くこともあつたり、場合に依つては、子供を連れて行くこともあつたりしますが、普通皆さんが避暑に出掛けられる様な氣輕い氣持で參るのであります。随つて澤山の旅費を持つて行つたことは一度もありません。出来るだけ安く上がる様に心がけて、さうして同時に向ふの民衆生活の内容に接してその相手が農民であらうと、漁民であらうと、或は、政客、軍人、學者、詩人、文人であらうと、さう云ふ様な人々にも會ひ、又時には禪寺に坊さん達と起臥します。さう云ふ旅行振りでありますから、今、國際關係がどういふ動きに達して居るか、或は支那がどんな策動をして居るかといふ様なことは、私には實に不向きであるが、又、成可くさう云ふ渦中には投じない様にして居るのであります。併し、それ丈に又如何なる危ない渦中であつても、私は平氣でさういふ本格的の意味ではなく遊びに參つてゐる。近くは、東京の支那公使館であらうが、何處であらうが、遊びに行く。自分の室の様な氣持で出入もし、又、交際もし、支那の諸君とは特に談笑を交へて貰ふやうに致して居ります。

とかく支那のことは億劫な大問題の如く考へられて居る。今度滿洲新國家が樹立されたことに就ても、是は日本の生命線である以上、大問題には違ひないのであるけれども、私自身の氣持から云へばさうその八釜敷い、大きい問題にしないで、柔かい氣持の中に話が出来ぬ。確かに斯様な氣持を自分は胸中に養つて居るのであります。随つて自分の氣持としては、

(2)

國際法的に之をどう解釋するか、或はその承認にどういふ説明を試みなければ治らぬとかいふ様なこと、さう云ふことに自分は特に觸れて旅行はして居らないのであります。随つて向ふで種々な人にお目にも掛つたり、又色々な席に招ばれたりもしました。がさういふ時には略々向ふの人たちの氣持が私にはよく讀める様な氣持がする。お寺に居らうと、又役所に居らうと南京政府の要路者と話をして居らうと、商賈人と話をして居らうと、その點は私には同じ様な譯である。全く公平に取扱つて居る心算であります。

よく日本から見えた方が、直ぐ南京に行つて要路の人に會ひ、二三日も經つとすぐ歸つてしまふ。さう云ふ旅行の仕方もないではないが、さう云ふ方法のみでは、とかく當てが外れ勝ちになるのではないかと思ふ。さう云ふ一時的の閃きを求めるやり方に對して、私は餘り興味を持たないのであります。持つとしたところで、さう云ふ人に會ふ時は、それと共に、其の人を盛上げて居る所の多數の人の力、多數の人の氣分を見てかゝることにならねばならぬのである。事實又、さうして居るのであります。ですから神戸の港に着いてからでも、蔣介石はどうして居るかとか、色々なことを記者諸君から聞かれる。すると、君は立派な朝日毎日の記者であつて僕にさういふことを訊くとは何だと言つて逆襲してやることがあります。支那を見るのに、餘りに、外交問題、政治問題、と言ふ様な點にのみ觸れ、他を見ないで居るからいけないと云ふてやる。餘りに幅が狭くて高さが過過ぎる様な感じがする。今少し高さを低めて幅を廣くして見るといふことにしないとどつしりした、本當の奥底に伏在して居る所のものが見えずしまふことになるのではないかといふ感じがする。禪寺で物語をする時の話の主要點も、又新しい青年達と會つて話をする時の氣持も、農村に行つて百姓たちと話をする時の氣持も、汽車の中で物賣りがこゝに、かやち申すのも大學の教授だといふことの外に、何も擱へられる所はない。自分で何も持つてゐない。たゞ學問研究の立場でやつて居るといふ文であります。現在滿蒙學校の講師を兼ねてやつて居りますけれども、是も自分の自由な考へを思ふまゝに述べて良いといふことであるから、やつて居るわけでありませぬ。其他、著書、雜誌、新聞等に時々書いたパンフレットを出して見たりする位の所をやつてゐるのであります。随つて、そこにどの人が來て居るからどういふ風に遠慮してものを言はねばならぬ、此場合は斯ういふ點を特に隠して話さないと拙いとかいふやうなことは少しもない。至つて無遠慮なことを云つてゐるのであります。思つた通りの事を程度を越へて申上げることがあるかも知れませぬ。その邊は豫めお含み置きを願ひたいのであります。

今度滿洲の奥の方を少しばかり歩いて見ました。滿洲と言はず、支那、南洋と言はず、四五十回歩いて居りますが、その間常に自分の感ずる所は、向ふの人の頭の中は、國家觀念よりも自治觀念の方が強い。あちらでは子供が日常自分で飯を食ふにも、お母さんから一錢二錢のお金を貰つて外へ出て安い飯を食ふといふものが多い。それだけでも自治の觀念が明かに表はれて居ると云へる。御圃を引くのでも、空圃が出れば良い圃の出るまで三遍も五遍も引き直すといふ風に自分の運命を四つ五つの時から開拓して居ることがよく解る。ですから滿蒙を歩かうと、支那を歩かうと、支那の人は自治の觀念に強く又よく固つて居る。その點は蔽ふ可からざる事實であります。親が病氣で寺に行つて制斷をして貰ふといふ時に神様の前で御圃を引く。支那で之をシンボウと申しますが、竹を二つに割つて作られたものを投げるのであります。それに陰、陽二つあつて、一つが上を向いて出なければならぬ。始め一回投げただけでは運命が決つたやうには考へないのであります。五回でも六回でも思ふ通りの出方になるまで投げて見る。そこ迄やつてそれを見届けて始めて親の病氣は治るのだと言ふて安心して歸る。そんなことなら始めから見ても貫ひに來ないでよい。來ない方が良きさうなものであります。が併しさういふ所に事を自分に有利に解決させるといふ心持が見える。それに就いては、神佛であらうと、何であらうと眼中にないといふ所である。病氣を醫者に診て貰ふ場合にも、僕の病氣は幾何で治すか、期限は何時までかと、時計でも直しにやる時のやうなつもりで云つて居る。さういふ所を見ると、向ふの人は自治の觀念を重く見る。自分の幸福、自分の生活といふものを何時までも主張して、飽くまでもそれを物にしなければ止まないといふ精神のあるところがありくと見えるのであります。特に滿洲國は獨立をし、今日その承認の間際に来て居る際に、その大きな精神の立場から、張學良時代の滿洲と今の滿洲とは何方が良いのかと云つてきて見る。すると無論今の滿洲の方が良いといふ。それは君の本當の考へかといふと、無論本當の考へ、アハハッ、と言つてその一言で蔽つてしまふ。

(3)

是は根本を申せば孫傳芳が以前に南京にゐた時に、五省聯盟總司令として君臨して居つた。だから孫傳芳のお通りの時は五色の旗を出したものだ。所が聽て蔣介石の國民軍が入つて來ると云ふと今度は青天白日旗を出すのだ。其の後、又孫傳芳の軍の入つて來た事があつた。がさうすると又五色の旗を出すのである。忙しいことであつた。何方でも都合の良いやうにからくりを廻しておいて兩方の旗の出しつくらをする。

さう云ふ點は上海に於ても、南京に於ても、滿洲に於ても、何れの地方に於ても、その土地の人に迎合し、其時の御都合の良いやうにし、自分に有利なやうに開展して行く。それですべて良いのだ。又それが支那上下五千年來養はれてゐる特異な處世法から出て居ると見られる。その頭から考へて來ると云ふと、支那の人や、或は滿洲國の人に、我々大和民族が期待して居る程の國家思想、又は國家の獨立についての考の確かさといふものは期待せらるゝが、日本人の腹の中と同様なことを之に期待するといふことは日本人としては尤もであり、當然でもある。殊に生命線と銘打つて力を入れてゐるもの、目から見ればそれに違ひはないのである。けれども、そこは向ふは柳に風、暖簾に腕押といふやうなことになるわけである。このことを頭の中によく／＼含んで置かなければならぬのである。強い意氣の漲つてゐる間は無論其の通りになつてゐる。其の強味さへ永久に續けば永久に續くでもあらう。其の邊のことは、日本人よりも自治の觀念といふものが進んで居るから、一層よくやる。我々が平生大衆に接する、寺の坊さん、商人、船頭、工夫、何れの方面の人々に接して見ても同じやうに感ずる所はその日本人に對する時と、ヒントの合せ方を違はせなくてはならぬといふ點であります。あちらでは自己の幸福、自己の社會の繁榮といふことが大事であり、之に重點が置かれて居る。ところが國家組織云々といふことになる。蔣介石の時代になつてからは、その廣東から國民革命軍を率ゐてやつて來て揚子江沿岸に至るまで、その湖南から打つて出て江西に至るまで、又その江西から出て、あの通り南京上海方面を席捲してうまく目的を遂げ、今ではあの通りに推しも推されもされぬものになつて居る。けれども、併し元々のことを考へれば、その武昌に居つた頃にはボロージンを使ひ、ソビエトロシアの氣持を十二分に釣上げ、其の智識を參考にとり入れて、急仕上げて來た。この事實は徹ふ可からざるものである。すべて其の時の御都合でどうにでもやる。此邊を日本人が自分たちの力で十分抑へ付けて行くことが出来るといふ風に考へるのは、普通の日本人の頭では當然だし、さういふ考を持つことは無理のないことでもある、けれども、其所に向ふ人とヒントの合つてゐない點のある處があるといふことを先づ見ておきたいと思ひます。それで相手と、どんなに堅い約束がしてあつても、其の實行の隣間になつて、それを果して守り得るや否や、といふことに就いては、別問題である。日本の直接支那人に接したことがある人は皆苦い經驗を嘗めて居る。向ふにはバンといふものがある。幫と書く。これは同業組合の間にもあるし、苦力の仲間にもある。總べての人々の組合組織、無盡講のやうな形式のものであつて、其の總べての組合の出來てゐるといふのもバンの力に依つて互に共同戦線が張られて居るからである。遠くから出て來た田舎のものも其のバンに依つて職業が

興へられてゐる。飯の食へないものは食はして呉れる。喧嘩が起れば仲裁をしてやる。あらゆる面倒を見て呉れる。バンくらゐ有難いものは支那にはない。従つて國家組織よりも、政府の力よりも、何よりも此のバンの力が強い。それに依つて五千年來の支那民心の力といふものが保たれて居る。それほどバンの力に依つて、いざといふ土壇場になると、涼しい顔をして其バンに對して全く素知らぬ顔を決め込んでしまふ。土壇場になると自分のことをよく考へる。前後左右から考へて見て、進もいかぬといふことになつたら、それきりで手を切る。もしそれから離れることに依つて殺されるやうなことがあらうが、とにかく知らぬ顔をきめ込んでしまふ。さういふ所に非常に強い自分自身中心の觀念がよく働く。

斯ういふことは、到底日本人の道德思想、日本人の常識から考へては出來得ないことである。丁度戦争のとき癡返りを打つといふことは、支那では珍らしくないことになつて居るが、日本人の目には非常に不思議でたまらぬ。

一體上官の命令に依つて軍隊が動かされて居る以上、其の師團長などが二三日たゞぬ内に軍隊を引き連れ、癡返りを打つなど、怪しからぬ。これと云ふは日本人の常識から見れば見方に過ぎないのであつて、向ふの人としては一つの商賣をして居ることになつてゐる。稼ぎをして居るやうなものであつて、其の商談が旨く纏らなければ何方に附かうと構はない。さういふ所に常識の違ひがあるのである。我々日本人が滿洲國へ行つて、滿洲の大衆、百姓でも、俵屋でも擱へて假に冗談のやうな、冗談でないやうな質問をして見る。するとすぐアハハハツでやつて居る。是は文學的に言へば明るいところがあるといへる。けれども、國家の存立といふところから見ると誠に頼りない譯であります。その頼りないのは、日本人流の見方からするからさういふ風に見えるのである。それを頼りないとかどうとか、批評がましいことを言ふのは、一體支那を理解しない人の批評になる譯であります。さういふ風に、國家百年の大計等といふ先きのことは恐らく南京政府の當路者と雖も、考へてはゐないだらうと思ふ。そこには癡張つたやうであつて癡がない。又癡張つて見た所で實現は出來ない。之を要するに、何れも皆よく／＼感じた途を探る。といふやうな所は、非常に、哲學的であり、又、文學的であるところがある。又超國家的のところもある。蔣介石自身にしてもあの通り、廬山に行つたり、漢口へ行つたり、上海などへ、日に何回となく往復して居る。國の當路者であれ程の働き手は一寸少い。人の如何については色々批評もある。けれども、兎に角よく努力して居る。併し是れとても現在々々のことで走つて居る。これも國家を背負ふて起つて居るからであらう。けれども矢張り、これは自分の黨派の爲めに動いて居る程度にしか見えない。それが國土全體に及んでゐるわけではない。日本人は直ぐ國家觀念の

方面から見て、やれ支那を開発し、或はやれ滿洲國を開発し、云々といふことを云はんとする。そしてひと足國外へ出れば直ぐに國家觀念で押通すのである。自分の身を殺して國の爲めに盡すことは結構なことである。商業に、工業に、會社に、總べての立て前が國の爲にやつて居るのである。是は支那の人の考から言ふと、一寸不思議に見えて居るだらうと思ふ。

それで向ふの人に向つて、假りに、國といふことを考に入れて考へて見なさいと云つて見た所で考へられるものでない。丁度熱帯の人が日本に来て雪を見ると不思議がり、或は氷を見ても不思議がつてゐるのと同じやうなものである。熱帯の人には温帯、寒帯の本當の状態が分らない。で支那の人の頭に、日本人の考へてゐる所謂國家觀念と同じやうなことを吹込んで見た所で向ふの人には分らない。割合に江蘇浙江の二省はよく固つて居る方である。是は上海南京の關係だらうと思ふ。安徽福建になると南京のこと等は餘り考へてゐない方である。湖南湖北となれば無論漢口方面しか考へてゐない。漢口を出て廣東の會社へ行く人の送別會を開いてゐるときの話を聞いて居ると、まるで外國へ行くやうなつもりのことを言つて居る。嶺南と書いてゐる位で敵の國へ行くやうに考へてゐる。一般の間では唐の時代から今に至るまでもさうである。よくやつて來ては悪戯されて居るものだから有難い國ではないと見てゐる。詰らぬ外國だといふ位にしか思つて居ない。智識階級のものでもさうである。四川省に行つて見ると湖北の者を擱へて老鼠だと言ふ。湖北の人に四川省の人をどうかと訊いて見ると、狐だといつてゐる。兩方で悪口を言合つてゐる。其の四川省なるものが日本の約二倍近い面積を持ち、人口は五十萬からある。是は南京政府から全然獨立したやうな形であつて、北の方蜀の棧道を越へる事も容易でないが、又南の方三峡を越えて入ることも容易でない。だから四川は昔から立派な獨立國のやうな顔をして居る。四川に入り劉文輝あたりに會つて色色の話をすると、矢張り世界の木勢は知つて居る。三十二三歳の青年政治家であるが、それで南京政府を少しも尊敬してゐる譯でもなければ、馬鹿にしてゐる譯でもない。向ふは向ふ、此方は此方だといふ。それが日本の二倍近い面積を持つて居るのだから、支那といふ國は、國家觀念でのみ押してゐるといふと、暖簾に腕押みたいなことになる。

支那人の頭の中には國土といふ觀念はどうか。是はワシントン會議の時であつたか、王正廷氏がアメリカから突込まれて、一體支那の國境はどの邊にあるのかと言はれて、ハッキリした答が出来なかつた。こは、支那とは何ぞやと云ふ問題でまごついた有名な話である。

二 支那人心理の裏面

支那は、國といふよりも天下と云つた方が通してゐる。西の方の青海は、其時代、智識の範圍内で二千里先になることもあるし、三千里先になることもある。天下といふ觀念の方が、國家觀念に近いことになつて居る。元來領土觀念なるものがハッキリして居らない。此頃の新しい教育を受けた者が、これ／＼の國土の面積を中華民國は嘗つて持つて居つたのだ、といふことを宣傳する爲めに、扇面に地圖を書いたり、或は學校用の地圖を澤山拵へて配つたりして居る。それを見ると黒龍江の江口地方のロシア領沿海洲であるとか、ビルマ、シヤムであるとか、安南、香港、臺灣等がある。これらは皆支那が嘗つてそれ丈の土地を失つてしまつたのだと云つて、それ／＼に八釜しく書き立てゝゐる。ところが、これまでは一向云ひ立てるといふことをしてゐなかつた。新聞が擴つて居る譯ではなし、出版物が擴つて居る譯でもなし、パンフレットすら知らない人が多かつた。支那と云ふ國はさながら蚯蚓が頭と胴と尻尾とに切られても、動いて居ると同じやうに、支那自身が他所の國に取られやうと、打ち切られやうと、無關心である事が多かつた。唯、世界の地理を知つて居る人々、世界の國際關係を知つて居る人々、新しい教育を受けて居る人々、所謂、自覺せるインテリ階級のもが騒いでゐるだけである。政府自身にしたつて、さういふ連中がアウ／＼言ふので、其のため悩んでゐる形が見える。先年のことである。九州戸畑の専門學校の校長から招かれて行つて講演をしたことがある。廣い講堂に半分は中華民國の留學生が居る。半分は其所の職員學生や、地方の有志である。演壇に立つた時、自分は青天白日旗を演壇の前に擴げて見た。さうすると中華民國の學生達が、その意外なる自國の國旗に喜んで拍手喝采した。其の晩、寄宿舎に出かけて座談會をやつた。其の時、或る學生が斯う言つた。租界回收の問題が昨今八釜しいが、先生は租界のことをどう思はるゝかといふ。自分は云つた。一體上海でも、天津でも、偉い政治家や、軍人、詩人、其の他、金持でも皆他所の國の力で以つて守つて呉れてゐるのだから、租界の中には支那の警察は入つて來れない。外國の力が十分に伸びてゐる爲め、其の中は絶對安全地帯になつて居る。君達も大きくなつたらあゝいふ所に居りたくなることだらうといふと、學生は云ふ。中華民國としてもあゝいふ絶對安全地帯といふものは、欲しいのは欲しいが、どんなに安全でも外人の手に依つて得らる、安全な所には住みたくないのだと、泣き乍らいふのであつた。

學生の氣分精神の中にはさういつた氣持が見出さるゝ。自覺とか、民族自決といふか、又國家觀念といふか、さういふ點

は確かに進んで来て居る。だから今までのやうな、百姓其の他、一向教育のない連中を相手にした時のやうな考で一般を律することは勿論出来ない。さういふ風に見て来ると民國の今日はたしかに段々變りつゝある。けれども、併し極く新しい教育を受けて居る新進氣鋭の人の二人指同ひになつて話などして居る時の様子を見ると、その扇の動かし挨拶、お茶の飲み挨拶、人の話を聞いてゐる時の態度などと云つたら全くうまい。顔をクルリと廻して感心してゐる様子と言ひ、又豪傑笑ひをする様子といひ、清朝時代に仕上げた習慣をすつかりそのまゝ受けて居る。教育はフランス、アメリカと、歐米の學問をやつて来ては居るけれども、根本の自己を持してゐると云ふところは何等清朝時分と變つて居ない。明の時も、元の時も、唐、宋の時も、漢の時も、又周の時代も變つては居らないだらうと思ふ。顧維鈞君や、王正廷君にしたつて、蘇秦張儀のやうに思はるゝところがある。潤達であつて、ユーモアに富んで居る。人を人とも思つてゐないところがある。さうかと思ふと感歎を極めてゐることもある。時には又知らぬ顔をして、昨日のことはケロリと忘れた様な態度をして居ることもある。又人に對しては實に旨くサーヴスをする。日本人なら向ッ腹が立てば一寸納まらない。そこらは全く蟬脱して人間が透つてゐるやうに二重人格、三重人格のところを自由自在に使ひこなして行く。その邊の修練といふものは、日本人では逆も出来ないところである。出来ないのではない、日本人は一克者であり、又短氣者でもあるから、さういふ氣持には馬鹿々々しくてなれないのだらうと思ふ。そこに天地の違ひがある。その上支那の人は七色八色に自分の身體を使ひ分ける用意がある。又自信のある爲めか、自分の國其のものをそれ程に有難がつて居らない。それで廣東地方の海賊村では、海賊に税を拂つてゐる。すると海賊はその村全體の自治をやつて呉れる。其所へ官選の役人が乗り込んで来た所で齒が立たない。此點は河南の紅槍會にしても、滿洲の大刀會にしても、大體同じ譯に行つてゐるのであります。さういふ風に、支那は一つの國よりも範圍を小さくした、一つの自治團體といふものを作つて之を常に重く視て居る、又それで以て立派にやつて行ける習慣がある。官選の役人など来た所で懷を肥やすに過ぎない。だから来て呉れない方が良いといふ頭がある。どうもさういふ點は、日本あたりでもそろく、此頃地方自治の考へが現れて來てゐる。百姓や、村の者が、請願人をこしらへて直接當局へ請願を持込むと云ふのは、矢張り役人はまどうかしい。結局我々のことは、我々がやらなければならぬのだといふ思想でゐることが、段々日本にも現はれて來つゝあるやうだ。支那は疾くの昔からそれでやり來つてゐるのであります。それで支那は結構やつて行ける。行けなくなつても、それで諦めがつくといふ一つの觀念が支那人には出來て居る。「仕方がない」(没法子)

といふ言葉の中には、實に綺麗な、さつぱりした所がある。斷頭臺の上で首を落とされると決つてしまつたら、もう仕方がない。どうせあの臺の上に行くのであるならば、朗らかな心になつてやらうといふ氣持になる。さういふ所に諦めがあつて、どうも國家本位に押し通して行くといふところがそれ程に考へられてゐない。こは支那一般の國民性であります。

それならば、例の排日等は支那人がどうしてやるのか、あれは國家觀念でやつてゐるのではないか、といふ質問がよく出る。が、是は排日業といふ一つの立派な仕事があちらに出來上つて居るのであります。排日業をやつてさへ居れば、喰ひ逸れがない。今では各地ともに職業になつて居る。倉庫番をして居るとか、或は學校の先生をして居るとか云ふものであつても、一向收入が定まらぬ。當てにならぬ。ところが排日の團體に入つて其の仕事を手傳つて居りさへすれば、少からぬ收入になるといふことになつて見ると、學生を連れて行つてそれを手傳はせるといふことにもなる。街路や、港の入口に持つて行つて大きな排日の掲示が出て居るからと言つて怯むことはゐらない。之を國家觀念の方から見ると、あれ丈の大文字を掲げ、又宣傳どらまで撒いて居るのだから、日本人が踏込んだら直ぐ殺されるだらう、など云ふものもある。けれども、是は日本人の常識からするから、さう思はれるに過ぎない。無論日本人で、殺されて居る人もあるにはあるが、是は行き方がまづいからである。少くとも事情に通じないことをするから殺されるのであります。例へば中村某といふ人が一萬元近い金を持つて支那人の通譯を連れて田舎を歩いて行つた。ところが、其の儘向ふで殺されてしまつた事實がある。是丈の大金を持つて行つたら殺されるにきまつてゐる。是は馬代だから仕方がないのださうですが、馬代ならばそんなことをしなくてもよい。馬屋の親爺を連れて歩き、あとで支拂へばよい。無論その殺さるゝまでの事は支那人とか、ロシア人とかの通譯から、洩れたことのある點もあるのだらうと思ふ。昨年春から南支那の海賊村、大湖洞庭の村を歩いてゐるが、其の海賊村の一人からこの一週間前に自分の處に手紙が來た。此の人はあちらで道伴れになつた人で、宿屋の全くない地方を歩いてゐた所が宿のない處では困るだらう、と言つて空の世話をして呉れた人であります。日本人は、馬賊や海賊と言ふと、直ぐ悪人のやうに見てしまふ。けれども、内部に入つて之を見れば、その悪く言はれて居る人でも、一向にそんな氣色は見えない。要するに、あちらは村も町も自治的によく治まつて居る。その邊の真相が日本に分つてゐないで、直ぐどの地方の者も、國家の支配下におのみ導かれてゐる、又動いて居るやうな風におのみ見るのが多い。そこは日本人の考の付かない行き方をして居るのである。だから支那にしても、滿洲國にしても、正直に言へば兩者多少違ふところがあるにしても、實際に於てさういふ

連中の延長であるやうにしか見えない。現に軍部の諸君等があれ程に努力して居つても、安奉線に出た、長春の北の方に又出た、遼陽の附近に、又奉天に、大石橋に、錦州附近に出たといふ。匪賊の止つたと云ふことは聞かぬ。何處からでも出て来る。之をあたらの消息通に訊いて見ると、日本は軍隊を動かし一生懸命にやつて居る。けれども、向ふの連中に武器のなくなる氣遣ひはないと云ふ。山東あたりに居る馬賊村の話聞いて見ても、馬賊討伐に行くことは行くのだ。けれども正直に討伐なぞするものか。どうするのかといふと、途中で馬賊の親方見たいな百姓の首を先づ切つて来る。そして持つて行つた大砲、銃器、彈藥は土匪の方に陳列して商賣をして居る。そして、その金は分けるのか、どうするのか知らぬが、ともかくも皆商賣で動いて居る。日本も昨今明治製糖の税金のことが新聞に出て居るが、あれ丈ではなく、今少し何とかしなくてはならぬ、と云つて居る。日本も大分六ヶ敷なつて来たと思つて訊いて見ると、代議士だとか、色々な連中にその株が買はれて居るのである。その株の爲めに又少しく問題がやゝこしくなる。利益の爲めにならどんなことでもやる、といふことは日本も可なり深刻になつて来て居るが、支那は其の深刻さを、既に三千年の昔に卒業して居る。だから國家思想、國家觀念といふものを今更持つて行つて見ても駄目である。

其上、又理窟の付け方の旨いこと、云つたら、支那は實に世界一である。四川省の奥で、楊子江の船の上り得る終點の處に叙州といふ所があります。日清汽船の輪船、德陽丸で叙州まで行つた時分のこと、船の先方半哩ばかりの所で、石炭を積んだ船が逆立のまゝ沈没して居る。船長が自分のそばに来て、あの沈没して居る様子を見られたであらうから、今一札書いて呉れといふ、宜しいと云つて、何時何分瀟湘の半哩先で民船が沈没した。これは間違ない事實であると言ふことを書いて渡した。長江は上流まで行くと、汽船のスピードを出して来るとき、よくその後波に依つて民船を沈没さす事がある。だから七千圓出せの、一萬圓出せのと言ふ騒があるのである。それで自分共も瀟湘まで下ると咎められた。そんな馬鹿なことはいよ、第一地點が違ふ。チャンと此の通り、お客様も證明書を書いて居るくらゐだから問題にはならぬと、言ひ捨て、錨を上げて構はず下つてしまつた。しかしさういふことをすると、其のあとで若し叙州に積荷でもあつてその港々で荷揚をして貰へないと困つてしまふ。さういふ實情がいくらでもあります。又日清汽船の船で廣東に行つた時のことである。學生が四人乗つて居つた。是は軍官學校から金の要らぬ切符を呉れてゐたので、それで乗込んだものであつた。あの邊の船は、出

帆してから貨金を集めに廻るのである。が御承知の通りあの邊の船は、一二等と、三等の間が鐵柵で區別されてゐて、まるで動物園の虎を入れた處の様な風になつて居る。その三等室に船賃を集めに來た所が、四人の學生は證明書があるから只であると云ふ。所が支那の船ならば只である譯であらう。けれども生憎、日本の船だからさうは行たぬ。是非支拂へといつて拂はせた。ところで汕頭まで四人で二十一錢といふ、極く少額のかねを盡々出した。それからといふものは船内にゴタ／＼があつたらしく、その夜一人飛込んだものがある。四人の間で仲間同士で喧嘩をしたものらしい。あの邊の黄色い海へ飛込んだものだ。船の方ではそれが分るとすぐサーチライトで照らし、クルリと船を廻して見た。けれども、それらしいものも見當らずしたので其の儘行つた。所があとで船が汕頭へ着いて見ると、大變なことが始まる。曰く此の船では無理なことを云つて學生から船賃を取つた。のみならず我々には飯を食はせない。茶碗や箸まで取上げてしまつたのだ。それだからその中の一人は憤慨して海に身投げをした。それに向つて船ではボート一つ降さない等と、宣傳に書立てる。それでどうかしろといふ幕になるので、其の父兄から二萬五千圓の罰金を出せと言ふ。追悼金と云ふ名目である。それから船長に來て謝れといふ。かやうな問題で随分手古摺つたものだ。それに承知しないと荷役をしない。其の時は、工人會の方でも尻押しをしてゐた。そんな馬鹿々々しいことは、事實あり得べき事でないのだけれども、兎に角荷役をして貰へないのが困るのである。止むなく四百圓位ならば拂うと云ふので、日清汽船の本社に電報で訊合はして見た所が、千圓位は仕方がないから出してよといふ。それから其の事件は仲裁が入つたり、色々なことがあつたりして荷役だけはして貰つたさうである。

さういふ、うるさいことがあるのであります。あることないこと、兎に角理窟の付け方がらまい。是はベルサイユ會議であらうが、ワシントン會議であらうが、ジュネーヴであらうが、そんなことは問題にしない。全く平氣である。面白い理窟を付けるといふことに就ては、日本人は餘りに、馬鹿々々しく思はれてやれない。出來ない事である。ところが向ふは芝居式に仕組むことがらまい。日本は正々堂々と表玄関から行く。言ふだけ言つて裏の方へ廻はつて行くことはしない。向ふは表裏兩方から一生懸命にやるのである。唯、都合の悪いことには、アメリカ人がとかく始終向ふの肩を持ち、日本と逆行する態度を執ることである。何か知らない裡に、日本に香はしくないやうなことを仕向けて来る。個人的に會つて見ればアメリカの人とても皆良い人である。けれども大きな政策、滿洲問題となるといふと、事實何だか日本に都合が悪く見られる様に出て来る。支那の田舎には、滿洲國でもさうだがアメリカの宣教師が大分入つて居る。立派な生活をし、立派な地圖を作つて

居る。其の他色々な報告書を作つて居る。又支那人を風呂に入れてやるし、着物を着せてやるし、歡心を買ふことに努力して居るらしい。又その各人ポケットに薬を入れておいて、顔色の悪い人を見ると路上、薬を與へたりなどして居る。日本の本願寺の坊さんは大分行つてゐるが、さう云ふことをしない。アメリカの宣教師は拔目なくやつて居る。殆ど外交官の手先と言つても良い位にやつてゐる。或は、アメリカ本國の軍事探偵のやうな使命をも受けて居るのではないか、といふやうな氣持がする。時々自分は船中で支那通ひの古い知り合の宣教師に會ふことがある。御子供さんは何人ですか、と云ふと子供が又一人殖えましたといふ。子供が殖えると、以前にはアメリカの本國から割増を呉れてゐた。やれ結婚だ、やれ何だといつて割増を呉れる。歸るに付けても又旅費を澤山呉れる。それでこんど何故歸るのか、ときくと恐ろしくなつたからだといふ。宣教師をしてゐて恐ろしいといふのはをかしい。僕などは、馬賊の出るやうな野や山を歩いてゐても恐ろしくはないといふ。君は君だ、僕は片田舎に居ると本當に怖い。もしこれでアメリカへ歸つたら二度と來ないのだといふ。察するに、道の爲めに盡してゐるものも居るのだらうが、大抵祕密を視察して歸るといふやうなのが多いらしく考へられる。

兎に角、アメリカの支那及滿洲に手を入れて居ることは少からぬものがあるらしい。人間もさうだが、金の方でも種々の策動をやつてゐるやうな氣もする。又上海の港丈でも驅逐艦、大型軍艦が澤山出で居る。そしてサーチライトをピカピカと照して一種の示威運動をやつてゐる。奥地に這入つても、その水邊でスタンダード石油のタンクのある附近には必、アメリカの軍艦が來てゐる。アメリカの國旗が出て居る。アメリカは可成り奥へ深く入つて居る。その次はフランスで、フランスの宣教師も必ずその良い船着場の形勝な位置を占め、誠にソビリとやつて居る。奥地の地圖を調べて見ると、大體フランスの地圖が一番良く出來てゐる。それからイギリスである。カスタムハウスのものによいがある。日本はずつと後であります。奥地に入つて國際關係の多いのは兎に角アメリカであります。奥地、到る處にアメリカのスタンダード石油會社の販賣所がある事等は、どの位支那内地に、アメリカが手を伸ばすによい手藝となつてゐるか知れないと思ふ。英國が支那に向つて借款に應じて呉れない時はアメリカはニコ／＼してゐる。フォードの會社では漢口上海間の道路を引受けさせて呉れるならば、自分の會社から金を出しても良い、といふ様な話があると支那の新聞に會て持上つて居つた。恐らくアスファルトの自動車路を造りあげて、其の後からフォードの自動車を買ひ付ける積りであつたのだらう。それからイギリスが斯うなつて孤城落日の姿を示して來たし殊に日清汽船も斯うなつて、最近ではアメリカがダン／＼支那の船會社の方に金を入

れ、船會社が段々支那政府の國營化と云ふことになりつゝあるやに噂されてゐる矢先、それに向つてアメリカの少からぬ金が入りつゝあると云ふことが傳へられてゐるのであります。さういふ方面を見ると矢張り揚子江丈でなく、北支那丈でなく、滿蒙の天地に於ても相當にアメリカが茶々を入れるやうなことは、アメリカとしては當然の行掛り上、自分のモンロー主義の歴史は棚にあげ、東亞に向かつてやらすには居られないと云ふ様な風になつて居る。

法律の尊ばれて居る國では、先づ何もかも法律といふことが頭に置かれ、法律に抵觸しないかどうかといふことが、先に考へられる。之を考へるのが普通の法學者の立場である。けれども、支那自身に於ては一向法律等といふものについては思案しない。自分自ら、國を法治國と思つて居るのではない。事實、法律等といふものは殆んど眼中にさへ置かれてゐない。すべての事は自分で作つて自分で行ふ。自力更生第一主義である。今では、三民主義を唱へて居つた民國自身に大分飽いて來てゐるものも現はるゝ様になり、また國民政府は、憲法そのものでさへも考へて來て國民黨だけではいかぬ、之を擴めなければならぬといふ必要も分つて來た様である。袁世凱や黎元洪、段祺瑞等とずつと見て來るのに、何時でも國の憲法と云ふものが其の人のゐる時丈で、朝三暮四と變つて行く。

さう云ふ風に囚はれてゐない思想の國へ持つて行つて一定不易の法律的の考へが適用せらるゝか。法治國相互の間で見らるゝやうな風事を考へるのはいけない。支那人は二と二を加へて四となること等は考へて居らない。之を何でも考へる。法律をやつて居る人は直ぐ二と二は四でなければならぬといふことを言ふ。けれども、結局自體に泥を塗つて來るものには紳士連は適はないといふのと同じになる。その邊は亂暴な意見のやうだけれども、支那を相手にして考へる場合、殊に後の方にアメリカといふ國が控えてゐる場合には、餘程そこを考へてやらないと獨り窺地に陥る虞があるだらうと思ふ。

イギリスの方は、租界としては上海、領地としては香港、九龍丈残つてゐて、香港のガヴァメントも非常に臆病で、女の如くやさしくなり、何でも左様ならばでやる博士を任命して、少しでも支那側の氣嫌を損はない様な政策に變つてしまつた。イギリスの勢力はもう影がらうすい。此間も私の友人の寧波稅關にゐるものに會ひ、同君に城内を見たいかといふと、此方へ來て一年にもなるが城内へ行つたことはないのだ。行つて見たいと思ふけれども、子供でも二階のベランダで遊んで居る丈で出られない。若し問題が起ると日本人丈の問題でない、英人の稅關長にひいて來るから、さうつとしておいてくれと云はるゝから、さうしななければならぬのだ。だから出られないのだと言ふ。それなら君を預つて行く。奥さんの許しを得て、確か

に大丈夫だから城内に一緒に行かうとニコ／＼顔で出かけて行つた。そして散々色々な所を歩いて夕方五時に歸つて来た。細君、どうもなかつたでせうかといふ。どうもないもあるものか、全く面白かつたのですよといふ。其位の話柄もあるのです。相手が日本人にしろ、何かあつては困るといふ位に思つて居るのだから、英人は上海と言ひ、香港と言ひ、内心はビク／＼して居ることは察するに餘りがある。イギリスは支那のボーイコットに就ては、甚だ苦い経験を持つて居る。のみならずカンジの問題と言ひ、色々印度のことはイギリスには非常に困らされてゐる問題である。だから兎に角日本と仲よくしておかなければならぬといふ氣持があるらしい。はつきり分らない。が寧ろイギリスとしては日本にさう逆らひはしないだらうといふ氣持が見える。是は上海に行つても、滿洲にあつても、南洋方面に行つてもその氣持は見える。アメリカの方はどうもさうでないらしい感じが、我々日本人の心には見える。支那の人の氣持からすれば、何も日本人と手を握らねばならぬことはない、といふ理窟がある。利害關係がある。日本の方は表面強く出ても、どうも手を握つて貰はなければならぬといふやうな態度をさとられる地位にある。向ふでは何でもお願ひしますといふ氣持は見せてゐない。

三 滿洲問題の機微

日本人は支那の人の様に、意表に出た非理窟的な高飛車なことを言ふとか、或はユーモアで以て人を煙に巻くとか、其他折違ひの冗談等を言つて相手の度膽を抜くとかいふ様なことはとても出来ないらしい。是は一つには、日本人は物の秩序とか、人の手前とか、常識とか、自分の立場とかいふ様なことのみ始終考へてゐるからである。支那人は其所へ行くとき自分の利益を守る、國の事は何とも思つてゐない。さういふ所は日本人には殆んど出来ない藝當だ。支那の人の「仕方がない」といふところの氣持は日本人と特に變つて居るところがある。滿洲の人にしたりつてさうである。日本の人は商店へ品物を買ひに行くとする。さうすると此の品物が欲しくて仕方がない。けれども買へない。負けてくれないからである。それで四日も五日も行つて負けないかといふ。若しそれが日本人の店だと、あんなに此の品物を買ひたければ旅行中で金を澤山持つて居るだらうから買へば良い、と云ふ風に嫌な顔をして蔭口なをまきく。所が支那人の店だと全く違ふ。貴方一つお茶を入れるから後房へ来て飲んでくれと云ふ。それから例の品物は、あれ程貴方の氣に入つたのだから差上げます。進物にします。ゆつくりまあお茶でも飲んで行きなさい。あれよりも奥には良いものもあるから御覽に入れます、といふ風に歡待して呉れる。

買はうと思つてゐた品物に對して、金は要らぬといつて無料で呉れやうとする。又事實、函に納めて贈物として呉れるのである。お邪魔なら宿へ届けさせますよといふ所までやつて来る。

こは人の度膽を抜くといふことでもないかも知れぬが、大阪商人あたりでもそれ丈の藝當の打てる人があるか。又、南支の海賊村に續いた鄧尉といふ所に梅見に行つたことがある。其處の尋梅旅館といふのへ泊つた。僕は出して金を持たないから安い室で良いといつて帳場の側の客室を借りることにして主人と話をした。帳場や客室の聯に大變良い言葉の書いてあるのがあつたから其の文字を味つて居つた。主人は額や掛軸の餘程好きな性質らしかつた。立派なものが色々あるだらう。奥にはきつと良いものがあるだらう、差支なくば一寸見せて呉れないかと申出て見た。すると主人は二一客室へ案内して、大いに私の目を楽しませて呉れたのであつた。そして帳場に歸つて来てから主人は私に友達になつて呉れないか。もしさうして呉れるなら光榮の至りだと申さうまい。そして更に云ふ。今日貴下の室を七十錢と決めた。その七十錢で良いから奥のよい室へ變つて呉れないかといふ。僕は金がないのだから此の室で澤山だ。寝に就いて目をつぶつて仕舞へば、どこでも同じことだ。けれども此の室は帳場の隣で騒がしいといふ。僕は何方でも、よく疲れてゐるから構はないのだと言つた。それで一つ電球を大きくしやうと言ふ。斯ういふ具合に親切にして呉れる。其の他色々話をすると長くなるが、本當の氣持を打開けて呉れる其の主人の腹の底がよく讀める。昔から支那には斯ういふことがある。是は唐詩選の中にある有名な詩で、賀知章といふ人の詩であります。

主人不_レ相識。

偶坐爲_レ林泉。

莫_レ譏_レ愁沽酒。

囊中自有_レ錢。

此の家の主人は知らないのだけれども、お庭が餘り良いから一つ拜見さして戴きたい。僕は眺めが良いから、酒を一本つけ乍ら一杯氣味でお庭を拜見したい。丁度、ポケットに金の持合せがあるから主人には一文も迷惑を掛けませんから、といふ氣持で唐詩選中の禮味ゆたかな句である。さういふ氣持は今の支那人にもある。上海でも、南京でも、自分はよく散歩のとき、近道と思つたら店から入つてずつと裏へ抜けて行くことがある。そして臺所で魚の値段を訊いたり色々な話をしたりして、近道と思つて、時間を節約する積りが却つて三十分も一時間も費すことすらある。日本で斯んなことをすれば、こゝは通り道ではない、家宅侵入罪だとか、交番へ届けて来いとか云はれる。かういふのんびりした氣持は、支那は養へたりと

雖も、或は衰へて居らぬかも知れぬが、兎に角支那はさういふ所に大きな所がある。向ふの人には天真といふか、何とも言へぬ所がある。此の點又は、國柄がどうであらうと、學校教育がどうであらうと、子供の時からよく馴らされて居る。家庭教育と言ふか、社會教育といふか、兎に角自分達の氣持は皆腹の中にあるとしてゐる。で勞働者がどんなに一日忙しい目をして働いて居つても、夕方になると、棒の先に小鳥を止らせ、それをあやし乍ら散歩して見たり、或は柳の堤防を夕日に照され乍ら、鳥籠をさげて散歩するといふ様なところを見る。これは日本の勞働者等に比べて確かに違ふ。官吏や會社銀行等に立つて見ても、さういふ氣持が漂うてゐる。軍人にしてもそれである。ところが軍人は日本では榮進といふのが軍人の精神であり、氣持でもある。尤も昔は、熊谷と敦盛の話のやうな佳話があつたり、随分麗しい話もありました。向ふの軍人の頭の中は、半分は社交、半分は職業の考がある。日本の軍人も、職業軍人と言へぬことはないが、向ふのは自分自身でよくやつて稼いでおかなければ、恩給が着く譯でもないし、一生の處置をうまく立て、おかなければならぬといふ立場にある。食つて行くといふことに於ては、將校も、商賣人も同じ立場にあるのである。此處が日本人の不思議に思はれる所である。軍人であり乍ら逃げて行くとは何事か、軍人であり乍ら寝返りを打つとは何事かと云ふ。向ふでは軍人であつても、俸給がちゃんと渡ることもあるし、渡らぬこともある。それで食つて行くといふことに就ては商賣人と同じ氣持であるのである。支那の青年の話の聞いて見ると、日本は上に居る人が六十幾歳になつて止めなければ下の者はその地位に昇ることが出来ない、氣の毒ですぬといふ。そこは支那も同じことではないかといふと、支那はちがふ。やれ南京政府だ、やれ廣東だ、やれ何だと二六時中、次から次へと變つて行く。中心を毀して又作る。その間入り代り立ち變り、更替して行くから公平に行きます。日本は其點は官吏の身を保證して呉れる法律が出来てゐるが、それ又普通のものは上に出来ないといふ悲惨なところがあると云ふ。成程支那の人だけあつて面白いことを言ふと思つて聞いたことがある。日本の軍人は、足らぬとは言へ、主義であり、困らないことになる。だから日本側から支那の軍隊を批評するときは、とかく支那の實際の氣持を想像しない。だから其處にどうしても相容れない所がある。今度滿洲國に於ては、靖安遊撃隊といふものを拵へ掛つて居る。こゝに立派な滿洲國の軍人精神を作るといふことでかなり人選が嚴重であつた。

其の他大同學院といふのがあつて、國家有才の士を作る指導員の卵を拵へてゐる處で、今日駒井長官が校長になつて居られます。舊兵營をそのまま學校にして居る。それで日本人も大分使つて居りますが、將來向ふの人の頭を日本式の型に拵めて行くといふことには相當骨が折れるであらう。又それに暇も掛る。それでやつて見た所で日本人と同じにはなるものではない。過去三千年の歴史を無視して、さういふことをすれば無益なことになるのであります。

高等師範等に来て居る民國學生が、私は頭を叩いて見たり、色々するけれども、日本の人のやうな試験勉強は出来ませぬと云ふ。試験の時でも答案を特に立派に書かうとはしない。實に悠々閑々たるものであります。日本では、それ試験だと言ふと、卵を割つたりなどして、榮養價値を付けたりなどするけれども、支那の人はそんなことはしない。其の代り日本人の方は點數は取ることとはとるけれども、試験が済んだら皆忘れてしまふ。支那の方は點數は悪いけれども、平生頭の中に靜かに入れて行く。日本人は演説は演説として、永井柳太郎大演説集等といふのを買つて来て、諸君と諸君と、机を叩いて歌居る。支那人にはさういふことの出来る餘裕がある、又重味がある。そこを知らず、たゞ軍人精神といふ固いもので以て日本人から定規で測つて行かうとしても、それは駄目だ。其の代り大きな人間學とか、生活學とか、潤ひとかいふものから見て來ると、向ふの方が十分たつぷりあつて日本の方には、それが乏しい。さういふ相手に對して日本人が、國家觀念とか、帝國主義とか、色々な法律本位のことで以て向ふを責めて見た所で、向ふの方は法律を超越したやうな立て前で幾らでも逆うしても向ふとの折合を付けて行かうとするには、法律を超越しなければならぬといふ所に来るのであります。それで、しかし、法律をなくする譯には決して行かない。それはそれとして今までのやうに置いておかなければならぬ。つまりはその法律を超越し、軍隊を超越した所の大きな氣分を以て、支那を理解して行くことが必要なのである。

日清戰爭以來日本人は支那人を馬鹿にする癖がある。東京の街を支那服を着て歩いたら、日本人が馬鹿にするでせうといふことを支那の青年に言はれたことがある。

法律から見れば法律の方が正しく見えてゐても法律ばかりでは肝腎の相手はその情に於て服して來ない所がある。情に於て服せぬ所があれば何時までも反抗をする。

どんな事でもやり出す。最後には日本人の家の水道に毒を入れることまでもする。だから情に於て服させるやうな暖かいものを一方に持つて居つて、そして一方で軍隊となり、がつしりやると云ふことにするなら良いけれども、片手落の状態になつて居る傾きがある。満洲に於て今日直ぐ必要な問題はそれだと思ふ。さういふ點が旨く行つてゐないといふのが今日の支那に對する一つの日本の手落であつたと思ふ。

満洲國に向かつて今日遅くはないから早速やらなければいけないと思ふ。此の點は臺灣が合併されてから三十年にもなるが、臺灣の人の氣持の中には少しも日本人と云ふものが入つて居らぬやうに感ぜられる。丁度星は積木細工を子供がペンヤンコに毀すやうなものである、又バラピン細工のやうにも見える。さういふ状態にあるのが今の臺灣であります。何故かといふと、唯政府の力、法律の力、國家の力でグン／＼やつて居るばかりであるから、霧社事件等が起つたのは遅かつた位、生蕃だつて人間である。さういふ點に就て臺灣當局は最も遅れたやり方をして居るとも云へる。それを内閣諸公、總理大臣が氣が付かないわけはないと思ふ。長官自身も氣が付かないでゐるのか。總督府は無論氣が付かないのか。臺灣の田舎の大肚といふ所の巡查が獨身で附近の娘のお腹を大きくした。所が巡查は知らぬ顔をして臺北へ發轉してしまつた。日本の巡查は酷いです、と憤慨して話してゐたのを聞いたことがある。皆が皆、さうでもあるまいが、假令一つにしろさういふことがあるといふことで臺灣總督は政治が出来て居ると思つて居るのかしら。此間は臺灣へ行く船の甲板の上で、紺の着物を着て居る學生のそばで背廣を着た一人の日本紳士が話してゐた。臺灣は始めてだけれど、どの位の人口があるのかと一人がいふことを知らなかつたらしい。さういふことは何處を歩いても二六時中であることである。私は東京で臺灣や、朝鮮の學生を世話して居たので、臺灣や、朝鮮の家庭に近づいて居るといふことが外へ聞えら、すると官邊では非常に嫌な顔をする。又用な考であつたならば、臺灣の政治は百年河清だ。本當に臺灣人の腹の底に入るやうな政治は出来ない。でさういふ風に唯威壓さすれば良いのだと思つて居るものが多い。威壓も時には結構である。或る程度迄の威壓をしないと付け上るといふことは言はぬでも分つて居る。だから無論軍隊も止めるといふのではない。十分やるべきときにやるのは結構である。それと同じ程度に於て、否、或はそれ以上の分量に於て氣持の方面をも培養することを忘れるやうなことではいけない。満洲問題

を見るときにしてもそれ丈の用意があるや否や、といふことを日本のインテリ階級、日本の教育界全部に向ひ、聲を大にして述べたいと思ふのである。日本の有識階級、殊に向ふへ出掛けやうとする連中にしても、其點にどれ丈の理解があるのかといふことを、我々はいつも不安に思ふ。日本では學校で折角修身倫理道德を教へてゐるけれども、知つてゐる人の間に行はるゝ道德のやり方である。所謂面識道德と云ふお粗末なものである。知らない人を見ると、あれは何處の馬の骨かといふやうな他人扱ひをしてゐるのである。さういふことでは支那、滿蒙の天地に自分一人で行く譯には逆も行かない。其の邊の用意が未だ日本人には出来てゐない。文部省一般の人でも未だ其の邊の用意が足らぬやうに思ふ。

それから支那といふ國は面子の問題、面子丈でもいけないが、大體あちらの人が自分を馬鹿にしては居らぬ、寧ろ尊敬をして居るといふことがわかる場合になると、日本人に對する態度がすっかり變つて来る。其の氣配が見えないと永久によろしくない。教科書の中に見ゆる排日の記事も勿論消えない。向ふを馬鹿にして居らず、相手の面子を重んじて居る日本人が多くなればなるほど、排日記事はなくなる。

又支那人には戯曲心が多分にある。芝居などでも本當に千兩役者が舞臺に出て來て氣に入つた賞演をやるとなると、舞臺に上つて行つて抱付く客すらある。それで芝居が出来なくなる。その芝居が出来なくなつたといふことが褒めてやつた言葉以上の値打があるので、全国的に新聞にも出る。さういふ風に随分狂氣じみたことや、常軌を逸した事をするものもある。人を歓迎するときでもさうであります。實に金を惜まらず又、暇を潰して歓迎をする。併し商賣の事となると、一文も負けな。そこはハッキリして居る。だから商賣は商賣、歓迎は歓迎といふ所に明確な區別がかみ分けられてゐるのである。

それから又支那には物のハッキリしないでボヤリとして居る事が多い。支那の學術でもさうである。サイエンス方面にかけての事にしてもさうである。ハッキリした方にかけてはドイツである。又その流で、其の流派を引いて居る學者は總てハッキリしてゐる。其の點になると支那人は最もハッキリしてゐない。それに持つて行つてハッキリさせ様とすることは自縛になる恐れがある。是丈は斷言が出来るのである。支那の事は大抵の事は決してハッキリさせる可きものではない、と云ふ立て前になつてゐる。ロシアにしても北極の熊の如き態度でボーツとヌーボーツ式にやつて居るが、あゝいふ風に行ける處が支那とよく調和してゐるのではないかと思ふ。それで支那人はボーツとした中に何となく要領を得て居る處がある。應接間で話をするときでも、日本人は面と向つて話をする事になつてゐるけれども、支那人は横に竝んで腰掛け向ふの壁を見

作ら話をする。だから、頭で以て約束したとした處で向ふでハッキリとして受入れて居らぬことがある。出席するらしくも
あり、らしくない事もある。だから出席すると思つて居ると營てがちがふ。どうしたのかと言ふと、合意は合意、しかし何
方だつてよいぢやないかと云ふ。さういふ所の表裏の使ひ分けはうまく、結果から見るとボヤツとしてゐて明白にしない。
そこへ行くと日本人はいつもハッキリしてゐる。ハッキリしてゐないと、頭がどうかして居るとか、あんな奴は昇給させて
やらないとか、ボーナスもやらないとか言ふ。そのボヤツ加減のところを巧に使ひ得る時代が來てこそ日本は始めて支那問
題とか、滿洲問題とかを解決することが出来るのである。それまでは難しかるべく、或は一時的の解決しか出来ないやうな
事になるかも知れぬ様な氣がする。日本では法治國だとか、やれ法律だとか、やれ何だとか言つて、堅いキチン／＼とした
ことを良いことのやうに考へる傾きがある。是はドイツ流、アメリカ流といふのである。が滿蒙支那に向ふには不向きの
方である。それもあまり柔か過ぎては零になる。そのヌーボー式の處に要領を得て行くべきである。その要領を得て行く行
きかたは、キチン／＼と刻んで行くことの十倍も百倍もの腕がなければならぬ。さういふ風にボヤツ加減を見せてゐる中に
らまく仕事をして行かうといふのが中華民國の人の腹の中である。これは支那ばかりではなく、滿洲國にしてもさうである。
その商賈人でも百姓でも、政治家でも詩人でも皆同じことでもあります。そこを本當に理解しないで、ハッキリしたことのみ
に目を着くるを能事としてゐると、日本は甚だ香しくない方面に陥る虞がある。必ずしも明白でなくともよい。だから電氣
は百燭でなくともよい。十六燭でも結構、或は五燭でも結構、灯があれば良い。それを日本人は暗いのを嫌ひ、明るい電燈
にさへ改めれば宜しいと思つてゐる。さういふ頭がある。

支那の人は又衛生といふことには構はない。細菌に打勝てるといふ氣分を持つて居る。日本人は衛生々々といふことを口
に言つては居るけれども、結局裸になつて體格を比べて見れば支那人の方が確かに大きい。簡易生活を營んでゐるところを
見ても、大連の苦力が飯を食ふところを見ても、洗面器に飯を入れ立つて食つて居ると云ふ、ありさまである。日本の勢働
者なんかは、そこへ行くと五倍も十倍も贅澤である。向ふのものはかうしてそれで儉約し尙且つ貯金して居る。一日三十錢
四十錢といふ賃金の中から貯金が出来てゐる。又十年目には地主となり、農場を買ふ。ところが日本人は物價が安いからと
いつて湯水の如く使ひ且つ借金して居るものが多い。給料が多いからと言つて贅澤をするものも澤山ある。そこで娘は二十
六七になつても金使ひが荒いと云ふて貰ひ手が一向にない。このことは滿洲にとつて百年の事を考へるとき支那問題以上に

困る問題である。

兎に角私の考では、承認問題にしても、リットン卿は、自分自身の手紙の中にどういふことを書くかは知らないが、しか
しさうハッキリしたレポートをあちらにして呉れない方がよい。其の方が支拂の爲めにもよし、又日本の爲めにも良いのみ
ならず、リットン卿自身の立場としても其の方が良いことだらうと思ふ。トコトンの所まで突き詰め、ハッキリと書いてお
ける場合がある、だから、それをハッキリした云ひ方にしておくのはどうかと思ふ。併し法律上確定したことにしておかなけ
ればならぬ。それも學者丈の立場からハッキリしたことにしておくのは良いが、政治家なり、外交官なりがそこに智慧を働
かせなければならぬ所だと思ふ。いくら何でも、ハッキリしたことを言つて來るだらうといふことは、向ふでも考へて居る。
日本は其の弱點に陥らないやうに戒めなければならぬのである。

支那及び滿洲國に對する、國家百年の計と東洋の平和、東洋の幸福を増大する爲めに大事なことは色々あるが、こゝには
是丈のことを申上げて讀者の參考に供したいと考へるのである。